

平城京左京三条一坊二坪 発掘調査

平城第650次調査

現地見学会資料

(独) 国立文化財機構 奈良文化財研究所

場所: 奈良市二条大路3丁目

時間: 令和5年1月20日(金) 11時~15時



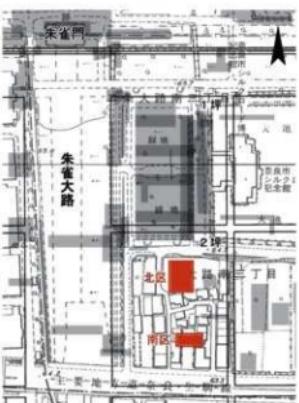
調査区（南区）全景と
復元された朱雀門、築地塀
(南東から)

調査の経緯と目的

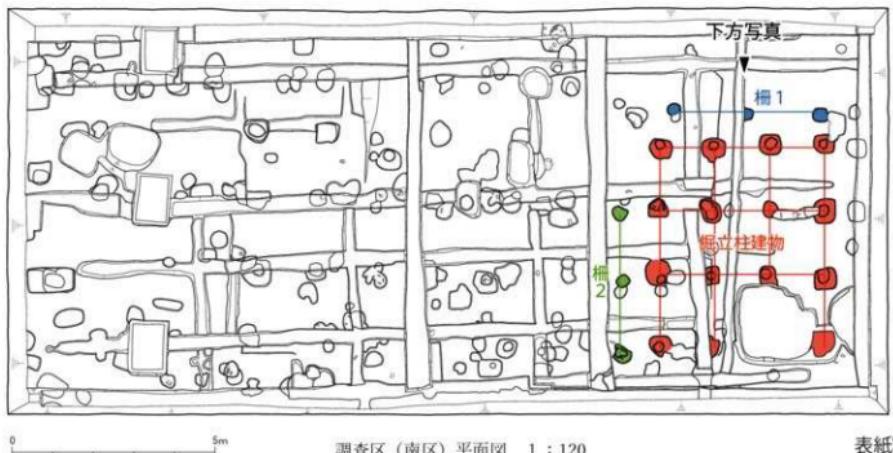
平城京左京三条一坊二坪は、朱雀大路に接する東側にあります。現在、奈良県の地域デザイン推進局平城宮跡事業推進室では、「平城宮跡歴史公園朱雀大路東側地区（歴史体験学習館）整備計画（県）」（2020年）に基づき、この場所に「歴史体験学習館」を建設する計画を進めています。これにともない、奈良文化財研究所では遺構の様相を確認するための発掘調査を実施しました。

左京三条一坊二坪では、これまでに史跡平城京朱雀大路跡の整備に関わる発掘調査や、国土交通省の平城宮いざない館の建設にともなう事前の発掘調査をおこなっています。これにより、少なくとも西辺と北辺は築地塀で囲われた空間であったことがわかっています。しかし坪の中心部分について、広い面積の発掘調査をおこなうのは初めてです。

調査区は坪の北半に南北25m、東西19m（北区）、坪の南半に南北9.9m、東西21.3m（南区）の2箇所を設定しました。調査面積は合計686.5m²です。調査は2022年9月26日（月）から開始し、北区は現在も継続中です。



調査区位置図 1:4000



調査区（南区）平面図 1:120

表紙写真

調査の成果

南区では小型の掘立柱建物を検出しました。規模は東西3間以上、南北3間以上です。東西の柱間は約1.35m(4.5尺)、南北の柱間は約1.65m(5.5尺)。建物内部にも柱穴があり、総柱建物、あるいは床張りの建物と考えられます。これにより坪の南半東側には大規模な建物がない可能性が高まりました。調査区西半にも小穴がありますが、期待した大型建物は見つかりませんでした。奈良時代の土地利用を考えるために、今後の周辺の調査成果にも注視したいと考えています。



掘立柱建物（北から）

東西に4基、南北に4基、柱穴が並びます。